

# ひとむれ

二〇一四年八月号

## 卷頭言

校長 仁原正幹

北海道家庭学校には今日現在、高校生五名、中学卒業生六名、中学生一三名、小学生一名の総勢二五名が在籍しています。高校生寮には先月までもう一人定時制の四年生がいましたが、二〇歳に到達したために遠軽町内で一人暮らしを始めました。総じて年長児が

多い状況で、義務教育終了後の児童数が四割を超える児童自立支援施設は、全国的にもあまりありません。

入所前の問題行動としては、多い順に挙げると、暴力行為、性的非行、怠学、不登校、家庭内暴力、金銭持出などがあり、近年は非社会的で不活発なタイプの児童が多くなっています。

入所児童の中には被虐待経験や発達障害

を有する児童が非常に多くいて、ともに全体の七割以上を占めています。そのようなこともあつて、半数以上の児童が精神科や心療内科に定期受診し、安定剤などを処方されています。

北海道家庭学校の伝統として作業指導には特に力を入れており、一般寮の二〇人がそれぞれ蔬菜部、園芸部、山林部、酪農部、校内管理部に所属して日々汗を流しています。一

学期の「作業賞」には五人が選ばれ、望が岡分校の終業式の中で表彰しました。因みに分校の学習指導の評価としての「学業賞」は三人、寮の生活指導の評価としての「努力賞」は一人が受賞しました。三賞を受賞することは子ども達の目標となっています。

今年、東京の巣鴨にあった家庭学校が北海道の遠軽に分校を開いて一〇〇年目に当たります。九月二四日に予定している北海道家

庭学校創立一〇〇周年記念式に向け、博物館のリニューアルや禮拜堂の鐘の復旧、各種資料の整理などいろいろと準備を進めています。昨年の旭川に続き先月は札幌でも大規模なチャリティーコンサートが開催され、大勢の皆さんにご支援をいただいたところです。報道を見て、卒業生等からも連絡が来ています。